

9.4.0 Hotfixes(1~3)

修正された問題と改善点

- Hotfix は、累積更新のため過去リリースされた Hotfix が含まれています。
- Hotfix は、CxManager サーバにインストールする必要があります。分散環境においては、Web ポータルサーバへのインストールも必要です。
- アップグレード(メジャーバージョン、Hotfix、またはコンテンツパックのアップデート)後は、インクリメンタルスキャンを実行する前に、まずフルスキャンを実行することを強くお勧めします。

カテゴリ	修正された問題と改善点
HF1	Tomcat のバージョンを、Apache Tomcat version 8.5.69 にアップグレードしました。

カテゴリ	修正された問題と改善点
HF2	結果ビューアの「Group By」オプションがすべての列で機能するように修正しました。
	OData で表示されるスキャン結果の状態が、Web ポータルの UI と一致するように修正しました。
	結果ビューアのページで、選択した単語の記載箇所のすべてがコード内でハイライト表示されるように修正しました。
	結果ビューアで、「悪用できない」とマークされた結果が出た後に、検出結果の総数がすぐに更新されないという不具合を修正しました。
	チームレベルでのクエリのオーバーライドが、誤ったチーム下に保存される不具合を修正しました。
	特定のインクリメンタルスキャンにおいて、Results Service 失敗(ログに ResultsSavingStatus エラーで示される)が発生し、スキャンが完了できない不具合を修正しました。
	フルスキャンとインクリメンタルスキャンの結果がマージされないエラーを修正しました。

	<p>CxServer のプロパティ名を、チーム階層内の任意の名前に変更できる機能を追加しました。名前の変更は、この Hotfix を適用した後にデータベースで行う必要があります。</p>
	<p>CxSAST 8.x バージョンで CxAudit ログの一部であった Origin 列を、CxSAST9.4 バージョンで再び追加しました。Origin 列の値は、CxOrigin および User-Agent ヘッダを生成するためにログイン API に渡されます。Origin 列には次の値が表示されます。WebPortal、cx-CLI、cx-VS、cx-Intelij、Audit、SDK、cx-Eclipse、Sonar、Jenkins、Bamboo、TeamCity、Maven など。</p>
	<p>Access Control の LDAP Settings セクションで、Advanced Role Mapping ウィンドウの「Cx Role - LDAP Group DN」マッピングのエントリーリストをスクロールできないという不具合を修正しました。</p>
	<p>LDAPRoleMappings Access Control REST API に PATCH メソッドを追加し、ユーザが既存の LDAP ロールマッピングのセットに、LDAP ロールマッピングを追加できるようにしました。</p>
	<p>Okta SAML (Security Assertion Markup Language) と Access Control の統合に影響を及ぼしていた、カンマ区切りの文字列の不具合を修正しました。この問題により、IdP (Identity Providers) の認証とチーム属性マッピング機能で、ユーザを複数のチームに割り当てることができませんでした。修正後は、カンマ区切りで複数のチーム名を指定することで、新規ユーザが自動的に複数のチームに割り当てられるようになっています。</p>

カテゴリ	修正された問題と改善点
HF3	<p>Access Control で、新規ユーザの [is_deprecated] カラムの値が 0 のかわりに、誤って NULL に設定される不具合を修正しました。</p>
	<p>OpenSourceUnresolvedLibraries テーブルの更新中に、過負荷のためにデータベースへのアクセスが失敗し、その結果、他のすべてのスキャンが失敗するという不具合がありました。大量な「未解決のライブラリ」を含む OSA (Open Source Analysis) スキャン時に発生する、上記の不具合を修正しました。</p>
	<p>ユーザがスキャンコメントに入力した一部の文字が、HTML でエンコードされた文字に置き換えられてしまう不具合を修正しました。また、一部のケースでは、この HTML 文字が原因で結果ビューアのページがロックされることがありました。</p>

	<p>OSA(Open Source Analysis)ビューアで Result States を変更できない不具合を修正しました。</p>
	<p>OSA(Open Source Analysis)スキャンを実行したときに、「ライブラリ」タブの「ポリシー違反」カラムと「ポリシー違反」タブに、ポリシー違反情報が表示されないという不具合を修正しました。</p>
	<p>スキャン結果には、「確認必要」、「悪用はできない」、「確認済み」、「緊急」、「悪用不可を提案」のいずれかのマークを付けることができます。さらに、ユーザがカスタムの結果状態を定義することもできます。以前は、ユーザはスキャンを「悪用はできない」とマークする場合にのみ、パーミッションが必要でした。現在は、ユーザが定義した状態を含むすべての状態に対して個別にパーミッションが要求されます。</p> <p>制限事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本機能は、OSA の脆弱性には適用されません。OSA の動作は、本 Hotfix のインストール前と同じです。 ・この Hotfix をインストールする前に「Manage Result State And Assignee」パーミッションがチェックされていた場合、Hotfix のインストール後は、新しいロールの結果状態のパーミッションがチェックされません。 ・OSA 制限付きのスキャンでも適用されません。

以上